

インターバンクの声（2015年5月28日）

前日に続いて昨日もドルが複数の主要通貨に対して上昇、特に対円では2007年6月につけた124円16銭まであと一步というところまで近づいた。一時は米国債利回りの上昇に伴うドルの上昇だったが、ここ数日は米国債利回りが低下気味になっているにも関わらずドルの上昇が続いている。極端に米経済が持ち直していることを確認させてくれるような指標発表が戻ってきた訳ではないが、ほぼその可能性が消えていたはずの米連邦準備理事会（FRB）の6月利上げ開始決定説すら蘇っている。もっとも年内の利上げ開始との見方が再び強まってきたというのが実際のところだが、改めて市場の強いコンセンサスが投資家・投機家の心理状態までコントロールしているのを思い知らされた。6月上旬に国際通貨基金（IMF）への多額の融資返済の期限が迫っているギリシャは、債権者側と事務レベルでの合意文書の作成に合意したようで、デフォルト（債務不履行）は回避できそうだとの見方が高まったようだ。ギリシャの債務問題が一時的にせよ材料視されなくなった時、果たしてユーロが本格的に反発するのかが次の注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。